

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千四百百號
明治廿二年九月二日 月曜日
舊曆己丑八月八日 (辛巳)
山手五時十分
山手六時十分
山手七時十分
山手八時十分
山手九時十分
山手十時十分
山手十一時十分
山手十二時十分
(西曆一千八百八十九年)

時事新報

北海道開拓

北海道の面積は五千八百六十餘方里にして沿海周囲は七百餘里と稱し山岳河川湖沼地を除き其三分の一を開拓するも尚ほ千九百五十三方里餘の沃土を生ずるの割合にして日本國中遺利の多く富源の最も深きもの唯一の北海道あるのみと申して可あらん左れば我が經國の士も夙より此に見る所ありて彼の水戸烈公の如き親ら蝦夷に赴きて開拓の任に當らんと當時幕府に建議したるもとありしりと徒に俗吏を驚かしたるまでよし

開拓を得て蜀を望むの人情、我輩は從來の開拓業を以て自から満足する能はざるなり然りと雖も此事たる開拓事業に従事したる當局者その人の罪のみに非ず我國封建藩政の餘習、人民自から小乾坤を劃して隣藩の姓來も乙甲に考へ況して北海道の如き榛莽荆棘虎狼の巢窟、世に云ふ鬼界の觀を爲したるが故に身自から其土地を履まんとするの念なきは勿論、山川市邑の名目さへ初めより承知せざるやうの次第にして一種の障を用ふれば日本國民の或る部分は夢の如く、幻の如く北海道を忘れ居たりとも申す可きか數年前の事なりとか元老院に北海道中或る河筋の堤防案が現はれたる

○内務、大藏兩省 は來る十一日より午前九時出頭午後三時退省と定めらるよし
○圖書館の變更 東京圖書館にては先づ普通書籍を大日本教育會へ下附して同館へは高等書籍のみを保存し参考圖書館とせしが尙ほ同館にては昨年學術研究に兼て歐米各國圖書館の制をも調査の爲め渡航せし文學士田中稻城氏の歸朝を待て歐米の制に變更すべしと云ふ

○北海道電燈會社の設置 丹羽維孝、對馬嘉三郎の二氏を始め多數名の發起に成りたる北海道電燈會社は資本金十六萬圓を以て札幌に本社を置き小樽及函館の兩所に支社を設くる等にて去る二十二日北海道長官の認可を得たれば東京電燈會社に依頼して工事着手し本年中には是非熱火の運びにあさんとて目下其準備中なる由因に記す同地方は府下と違ひ石炭の廉價なる場所ゆゑ其熱電料は東京の半價位にて充分あるべしと

被害人民の配恤し
に今官吏の勉強一警察官、司獄官、捕房の救恤に全力を傾けて市内を巡視し吏員役夫と共に頻與するの舟に盡力を爲し各郡村に赴いて救助に奔走す

少からず殊に氣の如き去る二十一日動きし際同市内の夫のアハヤと思つ見せざりし程の身力も亦た一方ならず救助場の被救貧民を設け家を損し志慮りかかりしが一萬に近かりと合して五百人内外のものにして寺院家族一宛開を爲し當感して思慮も出助を受け居る有難助は平素より、潤澤は、友達多、結局幸なりとす念なきもの少か、和歌山市民の損はけに私又損害を蒙りては容易に算し難し其の破壊、橋梁の毀壞、各自の損害金を調査互に少々を柱を挿し戸障りるものは家の大小一戸平均廿圓とすれば五十萬圓とすれば五十萬圓と和歌山市中未嘗有珍しきものよてありて以來の出来たる原因は非常な時は時勢の變遷も中主の先代より城にて中にも紀ノ川市中に潰決せんもの堤防即ち紀ノ川の堤防即ち紀ノ川の堤防即ち紀ノ川の堤防